

横綱若ノ嶋は五日目まで4勝1敗。四股名を若ノ嶋から元の若ノ嶋に戻して心機一転を図り、今場所こそは最後まで優勝争いに絡んで行きたいところ。

中日はこれまで5勝7敗と分の悪い関脇若剣との対戦だったが、立ち合いに左を差すとそのまま正面に寄り切った。横綱相撲で勝ち、七日目は支那虎を下す投げに下して1敗を守った。取り組み前に「錦風さん、今日の2番に勝てないよ」と今場所の優勝はないよ！と朝日松理事長から言われたのだが、その2番に勝って優勝争いに留まった。



若剣●(寄り切り)○若ノ嶋

今場所まで横綱在位17場所を数え、歴代6位タイの富士昇と鬼錦の18場所まであと1場所という在位記録になっているが、まだ横綱での優勝がない。横綱として11日間出場した13場所を見てみると、初日から七日目までの7日間の勝率が0・725と7割超なのに、対し、八日目から千秋楽の4日間の勝率は0・442と5割に満たない。

中盤まで優勝争いをしてきた場所も終盤に勝てずに優勝争いから脱落する場所が多い。それが優勝できるかどうかのポイントになりそうだ。「勝ち越しを決めたいし、横綱として千秋楽まで優勝争いをして場所を盛り上げた！」と若ノ嶋がその心意気を口にした。

新大関の佐賀ノ海は四日目に羽根にお株を奪われる押し倒しで敗れたものの4勝1敗とまずまずの前半戦。中日は「令和の怪物」新関脇千代鈴との1敗同士の初顔の取り組みが組まれた。「今場所初めての大関戦、楽しみですわね！」と春日根親方。対する錦風親方は「勝つイメージが描けないなあ！」と若干弱気な発言。

注目の一番は立ち合いに左を差した千代鈴が寄りた。佐賀ノ海は回り込みながら引き落とし、土俵の傾きに土俵につくが佐賀ノ海は廻しも土俵の傾きについでいる。物言いがついて協議の結果、取り直し。取り直しの一番も同じような展開となり、左を差した千代鈴の廻しが土俵につくのと佐賀ノ海が土俵を割るのが同時に再び取り直しに。

両雄の熱戦に盛り上がる場内の中、3度目の対戦は一転して佐賀ノ海が得意のど輪で攻める。千代鈴はこれを残す腰がなく黒房下に押し倒された。「千代鈴が一所所で2番負けたというのは初めてだね！」と鹿賀乃戸親方。千代鈴は2敗に後退したが、佐賀ノ海が勝ったことにより千代鈴の聲が上がった。

佐賀ノ海は続く七日目は小結の大神楽と対戦。先場所敗れているが大神楽に左を差されるも回り込みながら引き落としで勝って勝ち越しを決めた。「佐賀ノ海は差されても懐かしく、相手が落ちてもやうんだよね！」と勝間田親方。「でも、この2番に勝ったのは大きいね！」とまず勝ち越しを決めてホッとすする錦風親方だった。

平幕の剛勇山は磯昇、綱嵐と好調の2人に勝って6勝1敗と勝ち越した。このところ本場所に顔を覚えていない江戸川親方に対し、「親方にこの活躍を見せたいよね！」との声が上がっていた。



剛勇山○(引き落とし)●大綱嵐



大神楽●(引き落とし)○佐賀海



佐賀海○(寄り切り)●千代鈴

同じく6勝1敗で勝ち越しを決めた連勝若目、太刀風に連勝。五日目まで白閃光が全勝、磯昇、超刃が1敗と好調な磯ノ海部屋勢だったが、白閃光が連敗、磯昇が七日目に負けてともに2敗に。「なんだよ！」と磯ノ海親方も意気消沈だったが、「超刃がこのまま優勝争いに絡んでくれれば！」と期待を寄せていた。

いよいよ八日目から横綱大関と関脇千代鈴を含めた直接対決の上位戦が組まれる。全勝の大関春ノ翔を筆頭に、1敗の横綱若ノ嶋、大関佐賀ノ海、そして2敗の千代鈴と上位が優勝争いを引く展開となっていて残り四日間の取り組みが非常に楽しみだ。春ノ翔がこのまま全勝で走るのが、あるいは誰かがその連勝を止めるのか、最後に賜杯を抱くのは誰になるのか、八日目以降の相撲から目が離せない。(錦風)



超刃○(引き落とし)●太刀風

## 十両は雷若、春雷・若雲

五日目まで勝ちっぱなしだった春雷と雪若丸に土がついて全勝が消え、鹿富士と若雲山を加えた4人が1敗で並んだ。これを2敗で喜乃郷、電幕の2人が追う展開に。

中日に春雷は先場所敗れている喜乃郷との一番。ともに左を差し合う攻防から、喜乃郷に先に左を差され寄り切りで敗れて全勝を止



喜乃郷○(寄り切り)●春雷



春雷○(寄り切り)●燦ノ城

められたが、七日目に燦ノ城を寄り切った6勝目。実は場所前から四股名改名について親方と相談し、今場所に勝ち越したら改名することを決めていた。勝ち越しが決まったことで部屋の由緒ある元関脇鉄兜の兜を甲に変えて改名となるのはこびだ。友砂理事長から「いい四股名だから」とのお墨付きも後押しとなった。

幕下でも両者の対戦は、組み合ったのが一番。組み合ったのが、若雲山がのど輪攻めを見せて正面土俵す形で勝利。もはやこの強さは本物とない。ここまでの決まり手も多彩でオールラウンド的な内容に新入幕で目んできた。幕下では9場所を擁しそんな目立った活躍振りにはなかったが、着実に実力をつけていたと思われる。

その若雲山の快進撃に刺激を受けたかは分からないが五日目まで1敗とこちらも状態は良さそうな感じの鹿富士。先場所は連勝のあと連敗が続いただけに「今日は負けられないんだよ」と連敗を危惧する鹿賀乃戸親方も審判長席から声援を送る。相手の燦ノ城もここまで1敗と悔れないところだったが、立ち合いから速攻の左差しで寄り切った1敗を堅持。「今場所はなんかな、いい時の感じに戻ってきたんじゃないの」と錦風親方。翌七日目には2敗と好調な麒麟王を下して勝ち越しを決めた。



燦ノ城●(寄り切り)○鹿富士



若雲山○(押し倒し)●雪若丸